

地方独立行政法人栃木県立がんセンター
平成28年度 年度計画

目 次

第1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置

1	質の高い医療の提供	1
(1)	高度で専門的な医療の推進	1
(2)	チーム医療の推進	3
(3)	緩和ケアの推進	3
(4)	がん患者のリハビリテーション提供体制の充実	4
2	安全で安心な医療の提供	5
(1)	医療安全対策等の推進	5
(2)	医療機器、医薬品等の安全管理の徹底	6
(3)	法令・社会規範の遵守及び適切な情報管理	6
3	患者・県民の視点に立った医療の提供	7
(1)	患者及びその家族への医療サービスの充実	7
(2)	患者の就労等に関する相談支援体制の充実	9
(3)	患者及びその家族の利便性・快適性の向上	9
(4)	県民へのがんに関する情報の提供	10
(5)	ボランティア等民間団体との協働	10
4	人材の確保と育成	11
(1)	医療従事者の確保と育成	11
(2)	研修体制の強化	13
(3)	人事管理制度の構築	13
(4)	安全で安心な職場環境づくり	13
(5)	医療従事者の臨床倫理観の向上	14

5	地域連携の推進	14
	(1) 地域の医療機関との連携強化	14
	(2) 患者の在宅療養を支援するための病診連携の強化	16
	(3) 在宅緩和ケアの推進	16
6	地域医療への貢献	17
	(1) 地域のがん医療の向上・均てん化のための支援	17
	(2) がん対策事業への貢献	18
7	災害等への対応	18

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1	業務運営体制の確立	18
2	経営参画意識の向上	18
3	収入の確保及び費用の削減への取組	19
	(1) 収入の確保への取組	19
	(2) 費用の削減への取組	20

第3 予算、収支計画及び資金計画

1	予算	21
2	収支計画	21
3	資金計画	22

第4 短期借入金の限度額

1	限度額	22
2	想定される理由	22

第5	出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画	22
第6	重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	23
第7	剰余金の使途	23
第8	その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	23
別紙1	予算（平成28年度）	24
別紙2	収支計画（平成28年度）	25
別紙3	資金計画（平成28年度）	26

第1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 質の高い医療の提供

(1) 高度で専門的な医療の推進

患者がさまざまな病態に応じて必要な医療を受けられるよう、がん専門病院として、以下のとおり、高度で専門的な医療を提供する。

ア 局所進行がんや転移がん、希少がんも含め、患者がさまざまな病態に応じて必要な医療を受けられるよう、手術、放射線治療及び化学療法を組み合わせた集学的治療の充実を図るなど、高度専門医療を提供する。なお、集学的治療の実施状況に関しては、院内がん登録のデータをもとに分析し、一層の充実を図る。

【目標とする指標】

指標名	H26年度 実績値	H27年度 見込み値	H28年度 目標値
高難度手術延べ件数(件)※	52	50	55

※ 代表的な高難度手術である肝胆膵領域の手術延べ件数とした。

イ 低侵襲な腹腔鏡及び胸腔鏡下手術については、手術適応を守りながら安全に施行し、入院期間の短縮に努める。

また、低侵襲な内視鏡治療を実施するとともに、その情報提供を行い、周知に努める。更に、当センターの特長である大腸ポリープの日帰り内視鏡手術を推進する。

【目標とする指標】

指標名	H26年度 実績値	H27年度 見込み値	H28年度 目標値
腹腔鏡及び胸腔鏡下手術延べ件数(件)	280	280	285

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
外来（日帰り）ポリープ内視鏡 手術延べ件数（件）	694	870	880

ウ 短時間で効率的にIMRT（強度変調放射線治療）の施行が可能となるVMAT（強度変調回転照射）の準備を行い、7月から開始する。

また、SBRT（体幹部定位放射線治療）は、10月以降に実施できるように準備を進める。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
高精度放射線治療延べ件数 (件) ※	IMRT：779 —	IMRT：630 —	IMRT：660 SBRT：4

※ 代表的な高精度放射線治療であるIMRT（強度変調放射線治療）とSBRT（体幹部定位放射線治療）の延べ件数とした。

エ 抗がん剤の作用、副作用に熟知した専門医、認定看護師、薬剤師等を含めた多職種により、引き続き最新かつ適切な化学療法を実施する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
外来化学療法延べ件数（件）※	7,250	7,250	7,300

※ 抗がん剤の点滴治療を外来に通院しながら行う治療法。

オ 患者がよりよい治療を受けられるよう、治験等の臨床研究や新たな標準治療法の確立のための国内外の多施設共同研究に積極的に取り組む。

また、治験依頼者へ積極的に情報発信するとともに、治験コーディネーターを活用するなど実施体制を強化する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
臨床研究件数（件）※	184	208	212

※ がんセンターでは、院内に設置した臨床研究審査委員会で事前に倫理面の適合性を審査した上で臨床研究を実施している。

(2) チーム医療の推進

平成28年2月から開始したチームSTEPPS（※）の研修を全職員対象に拡大していく。

また、カンサーボード（症例検討会）は、定期的な開催を目標とし、死亡症例検討会も随時開催できる体制をつくる。

※ 医療の質及び患者安全の向上のためのチームワークシステム。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
チームSTEPPS受講率（%）※	—	27	40

※ 受講終了者を全職員（委託職員を除く）で除した率。

(3) 緩和ケアの推進

患者の苦痛の軽減や療養生活の質の維持向上を図るため、以下のとおり、がんと診断された時からの緩和ケアを推進する。

ア 緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟等を有機的に統合する緩和ケアセンターの体制の強化に努める。

また、緩和ケアセンターが主体となって院内向けに緩和ケア勉強会を開催する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
緩和ケア勉強会回数	年 10 回	年 10 回	年 10 回

イ 院内のみならず地域全体の緩和ケアの質の向上を図るため、地域の医療機関と協働して地域連携カンファレンスを実施する。

また、地域との連携を図り、退院前カンファレンスを年 1 回以上開催するとともに、訪問看護ステーションの看護師と協働して年 1 回以上患者訪問を実施し、患者及びその家族のサポートを行う。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
地域の緩和ケア連携カンファレンス開催回数※	—	月 1 回程度	月 1 回程度

※ 地域の病院や在宅療養支援診療所、緩和ケア病棟等と協働して開催する会議。

(4) がん患者のリハビリテーション提供体制の充実

患者の望む生活スタイルを支援するため、リハビリテーションスペースを拡充するとともに理学療法士・作業療法士の充実を図り、がんと診断された時から患者の病態に応じたリハビリテーションを 10 月から提供する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
がん患者リハビリテーション単位数（単位）※	—	—	17,040

※ 患者の回復力を高め、残っている能力を維持・向上させ、これまでと変わらない生活を取り戻すことを支援するために行われるリハビリテーション。

2 安全で安心な医療の提供

(1) 医療安全対策等の推進

患者が安心して医療を受けられるよう、以下のとおり、医療安全対策等を推進する。

ア リスクマネジャーや医療安全に関する院内組織を中心にヒヤリ・ハットも含めた医療事故の発生原因の分析等を行うとともに、安全管理に関する研修等を通し、職員間で再発防止策や医療安全に関する情報を共有化し、事故防止の徹底を図る。

なお、安全管理に関する研修については、全職員を対象にした研修を開催するほか、職種や対象に応じた研修を計画的に開催する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
医療安全管理研修（全職員対象※） 実施回数	年 1 1 回	年 7 回	年 8 回

※ がんセンターに勤務する委託職員を除いた全職員。

イ 感染対策委員会が中心となり、院内感染の予防、教育のための勉強会を年 1 0 回開催する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
感染管理認定看護師数（人）※	2 人	2 人	2 人

※ 感染症の予防・制圧に関する専門知識を有する看護師。

ウ 臨床の安全と質の向上を図るため、医療安全研修の中で多職種連携ロールプレイ研修を実施し、チームSTEPPSの導入の効果を高める。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
多職種連携ロールプレイ研修実施回数※	—	—	年 1 回

※ 医療現場で起こった出来事に関わった多職種の職員が実際に再現し、成功要因や失敗要因について振り返りをする研修方法。

(2) 医療機器、医薬品等の安全管理の徹底

患者に対して安全で安心な放射線治療を提供するため、毎月最終水曜日を放射線治療品質管理日とし、治療機器の精度管理を実施するとともに、その結果を掲示する。

また、医薬品の安全使用のための研修会を定期的実施する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
医薬品安全使用研修実施回数	年 2 回	年 2 回	年 2 回

(3) 法令・社会規範の遵守及び適切な情報管理

ア 県民に信頼され、県内医療機関の模範的役割を果たしていけるよう、法令や社会規範を遵守する。

イ 栃木県情報公開条例（平成 11 年栃木県条例第 32 号）及び栃木県個人情報保護条例（平成 13 年栃木県条例第 3 号）を遵守し、情報公開及び個人情報に関する各種請求に対して、適正かつ迅速な手続を行う体制を構築する。

ウ 栃木県個人情報保護条例に基づき個人情報の適正管理に努めるとともに、特に新規採用職員に対して個人情報保護に係る研修を行う。

また、職員の電子機器へのアクセス権限を必要最小限とし、適切に運用、管理を行う。

3 患者・県民の視点に立った医療の提供

(1) 患者及びその家族への医療サービスの充実

患者及びその家族への医療サービスの充実が図られるよう、以下の取組を実施する。

ア インフォームド・コンセントの徹底を図るため、カルテ監査による実施状況の検証を行うとともに、外部又は内部講師による教育講演を年1回程度実施する。

【目標とする指標】

指標名	H26年度 実績値	H27年度 見込み値	H28年度 目標値
カルテ監査実施回数	年1回	年2回	年2回

イ 患者が自身の生活のスタイルに応じて手術以外の治療法も選択できるよう、院内又は院外の患者及びその家族に対して専門看護相談を実施する。

【目標とする指標】

指標名	H26年度 実績値	H27年度 見込み値	H28年度 目標値
専門看護相談件数（件）※	352	288	480

※ 診療報酬上で定義されている、がん患者指導管理料Ⅰ及びⅡに該当する指導管理を実施した件数とした。

ウ 臨床検査技師による血液生化学検査の結果説明を開始するとともに、入院患者を対象とした診療放射線技師による画像検査及びIVR（放射線診断技術の治療的応用）の事前説明を計画する。

エ セカンドオピニオン外来については、第1四半期から平日午後のみでなく土曜日の午前中まで拡大し、消化器外科、乳腺外科、呼吸器内科及び呼吸器外科において開始する。

また、人員体制等の観点から計画を立て、第3四半期から平日朝の外
来診療を試行する。

【目標とする指標】

指標名	H26年度 実績値	H27年度 見込み値	H28年度 目標値
セカンドオピニオン件数（件）※	152	160	180

※ 患者が納得のいく治療法を選択することができるよう、治療の進行状況、次の段階の治療選択等について、現在診療を受けている担当医と違う医療機関の医師に「第2の意見」を求めること。

オ 手術前のマネジメントとして呼吸訓練、患者パスの説明指導、禁煙・口腔ケアのサポート、持参薬の管理を強化するとともに、入院案内、医療費の説明等、患者が入院治療を安心して受けられるよう、医療サービスの総合的なマネジメントを実施する。

カ 薬物治療（主に抗がん剤治療）に関する新規の院内クリティカルパス（良質な医療を効率的かつ安全、適正に提供するための手段としての診療計画表）を2個以上作成し、適用症例率の向上を図る。

【目標とする指標】

指標名	H26年度 実績値	H27年度 見込み値	H28年度 目標値
院内クリティカルパス適用症例率（%）※	50.6	52.0	53.0

※ 入院実患者数のうち、電子カルテ上で運用しているクリティカルパスに基づいて治療を実施した患者数の割合。

キ がんの治療に伴う口腔合併症を予防するため、口腔ケアの対象患者を拡大するとともに実施件数を増やすなど、周術期口腔機能管理の充実に努める。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
口腔ケア実施件数（件）	—	1 6 9	2 0 0

ク 病棟薬剤業務や服薬指導等を充実させるため、専任の病棟薬剤師を配置する病棟を拡大する。

ケ がん罹患に対する不安解消を図るため、がん予防・遺伝カウンセリング及び遺伝子検査に関して、県内の医療機関からの紹介による受診、遺伝カウンセリングを希望する患者及び家族からの直接の受診を促す。

(2) 患者の就労等に関する相談支援体制の充実

就労に関するニーズ等を把握するため、都道府県がん診療連携拠点病院として県内の各がん診療連携拠点病院の相談実績の分析や患者会等へのアンケート調査の実施等を行う。

また、がん対策加速度プランに基づき、ハローワークとの連携体制を構築し、患者等に対する就労支援を実施する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
医療相談件数（件）※	3, 6 5 4	3, 6 0 0	3, 7 0 0

※ がん相談支援センターにおいて、がん専門相談員が受けた相談件数とした。

(3) 患者及びその家族の利便性・快適性の向上

ア 患者及びその家族の立場に立った医療サービスを提供するため、共通研修の接遇研修を実施し、職員の接遇マナーの向上を図る。

イ 診療予約の適切な運用を図るほか、確認計算カウンターを撤去して外来待合スペースの有効活用を図るとともに、外来診察室の増設及び採血室の再整備を行うなど、患者の導線に配慮した取組を実施し、外来診療、検査、会計等の待ち時間の短縮を図る。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
診察待ち時間の苦情投書件数（件）	1	4	0

- ウ 患者のプライバシーの確保に配慮するなど、患者及びその家族の快適性に配慮した院内環境の整備を計画的に実施する。
- エ 婦人科・乳腺外科を中心とした女性患者の専用エリア（外来診察室及び待合室）開設の準備に取りかかる。
- オ 病院利用者の利便性の向上を図るため、病院利用者が病院施設内サービスへの意見や要望を伝える意見箱の設置場所を拡大するなど、意見箱を利用しやすいよう工夫するとともに、その意見や要望に対する改善策を検討し、実践する。
- (4) 県民へのがんに関する情報の提供
- 県民のがんに対する理解やがん検診の受診を促進するため、以下の取組を実施する。
- ア 広報広聴センターを新たに設置し、広報や広聴業務の一元化を図るとともに、各種広報媒体のリニューアルを行う。また、メディアを活用し、積極的に情報発信するとともに、SNS（ソーシャルネットワークサービス）の活用を検討する。
- イ 新たに開始する「がんセンター出前講座」のパンフレットを作成し、宇都宮市を中心に県内の行政機関等に配付するとともに、講演の募集を呼びかけるなど、「がん教育」の取組に協力し、健康教育を促進する。
- (5) ボランティア等民間団体との協働
- ア 患者会等と連携、協働し、がん患者等と同じ立場の人同士の交流の場である「がん患者サロン」の利用促進を図る。
- イ ボランティアと連携、協働し、院内の案内や季節ごとの行事の開催等、療養環境の向上を図る。

【目標とする指標（患者・県民の視点に立った医療の提供）】

指標名	H27 年度実績値	H28 年度目標値
患者満足度割合※	80%	90%以上

※ 毎年実施する患者満足度アンケート（入院患者・外来患者）の総合評価で「満足している」「ほぼ満足している」を合計した割合とした。

4 人材の確保と育成

(1) 医療従事者の確保と育成

ア 医師の確保と資質向上

- ・ 全国のがん専門病院との連携や大学との協力関係の構築により、人的交流を図る。
- ・ 専門医資格取得のための研修病院としての役割を果たすことにより、若手医師の確保に努める。
- ・ 特に、医師確保が必要である骨軟部腫瘍科、頭頸科、緩和ケア科、リハビリテーション科等に関しては、関東を中心に大学の医局や基幹病院等を訪問して、関係強化を図る。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
医師数（人）	57	53	53

イ 看護師の確保と資質向上

- ・ 養成機関との連携強化や随時募集により、医療環境や業務量の変化に応じた柔軟な看護師の確保、配置に努めるとともに、看護部全体の年間離職率（※）の目標を8%以内とする。

※ 離職率 = 総退職者数（定年退職を含む）が平均職員数に占める割合

- ・ 県内トップレベルのがん医療を提供できるよう、認定看護師、専門看護師等の資格取得や学会等の参加を奨励、支援するとともに、新規採用者集合研修や各クリニカルラダーレベルに合わせた実効性のある研修プログラムの充実を図り、計画的に研修を実施する。

また、新たにキャリア開発ラダーを導入し、院内教育の充実を図るとともに、看護管理者の育成も強化する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
認定看護師数（人）※	15	15	14

※ 公益社団法人日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められた者。

ウ 薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の確保と資質向上

- ・ 出身大学への訪問及びがんセンター内での就職説明会、見学会の実施等により、医療環境や業務量の変化に応じた薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の医療従事者の確保、配置に努める。
- ・ 各種認定資格の取得や学会等の参加を奨励、支援するとともに、実効性のある研修プログラムの充実を図り、計画的に研修を実施する。
また、新規採用技師の専門知識習得のための研修プログラムの作成及び充実を図る。

エ 事務職員の確保と資質向上

- ・ 医療制度や病院経営に関する、より専門的な知識及び資格を持った職員の計画的な確保に努める。
- ・ 各種認定資格の取得や外部研修会等の参加を奨励、支援するとともに、実効性のある研修プログラムの充実を図るなど、事務部門の専門性の向上と体制の強化に努める。

オ 多様な勤務形態の導入

- ・ 優れた人材を確保するため、短時間勤務や在宅勤務等、多様な勤務形態の導入を検討する。
- ・ レジデントの勤務形態を検討する。

(2) 研修体制の強化

高度で専門的な医療を提供するため、以下のとおり、研修体制を強化する。

ア 職員一人一人が高い目標意識、倫理観及び熱意を持ち、最新の技術によるがん医療を提供できるよう、医療人を育成する体系的な研修を一元的に管理する研修センターを新たに設置する。

イ 研修センターにおいて、新規採用職員を対象とする基本研修及び全職員を対象とする接遇研修を実施する。また、医療安全研修等、全職員共通のテーマ別研修の実施及び各部門が行う専門性を有する研修の実施を支援する。

(3) 人事管理制度の構築

職員の勤務成績等を考慮し、職員の人材育成やモチベーションの向上に資する評価制度を検討する。

(4) 安全で安心な職場環境づくり

職員満足度調査の実施等により状況を確認し、ハラスメントの防止やワーク・ライフ・バランスを推進するための研修や意識啓発活動に取り組む。

また、第1四半期に職員アンケートを実施し、院内保育所の土曜保育の実施を検討する。

【目標とする指標（患者・県民の視点に立った医療の提供）】

指標名	H27 年度実績値	H28 年度目標値
職員満足度割合※	63%	70%以上

※ 毎年実施する職員満足度アンケートの仕事のやりがい度評価で「満足している」「ほぼ満足している」を合計した割合とした。

(5) 医療従事者の臨床倫理観の向上

医療従事者の臨床倫理観の向上を図るため、以下の取組を実施する。

ア 専門家による講演形式の研修会や院内事例を基にした多職種による倫理検討会を開催する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
医療倫理研修実施回数	年2回	年0回	年2回

イ 病院臨床倫理委員会を隔月、定期開催するとともに、その中でケースコンサルテーション（相談支援）を実施し、院内の倫理観の向上及びスキルの習得に努め、院内のコンサルテーション体制の構築を図る。

5 地域連携の推進

(1) 地域の医療機関との連携強化

患者がどこに住んでいても質の高い医療を受けることができるよう、以下のとおり、病診・病病連携を強化する。

ア 地域の医療機関との的確な役割分担を意識し、治療の可否照会の患者は全例受け入れを原則とし、年齢及び進行度に鑑み、最適な治療方針をがんサージカルボードで検討する。

また、遠方の患者は、近隣施設との連携を密に行い、患者及びその家族の負担軽減に配慮する。

イ 地域の医療機関と密な協力体制を構築するため、地域の医療機関を定期的に訪問するスタッフ（医療連携コンシェルジュ）の導入を計画する。

また、がん種別の地域連携クリティカルパスを有効に活用できるよう、電子パス化の運用を検討するとともに、地域医療連携ネットワークシステムを積極的に活用し、利用者数の増を図る。

ウ 術前患者への口腔ケア実施に関する院内体制を整備するとともに、関係する各診療科への周知を図り、医科歯科連携を推進する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
院外への口腔ケア依頼件数（件）	—	1	1 2

エ 栃木県がん診療連携協議会の下部組織である地域連携・研修部会に医薬連携のためのワーキンググループを設置し、調剤薬局の薬剤師、病院薬剤師とともに、地域連携のための研修会を開催する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
医薬連携研修実施回数	年 1 回	年 1 回	年 1 回

オ 受託検査に関して、ホームページに最新情報を提示するとともに、パンフレットを作成して医療機関へ発送する。また、依頼時のタイムリーな対応と受入体制の強化を図る。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
受託検査件数（件）	3 0	3 7	5 0

(2) 患者の在宅療養を支援するための病診連携の強化

患者が安心して在宅での療養生活ができるよう、ケアマネジャーや訪問看護師等、地域の医療関係者と退院前カンファレンスを積極的に実施するなど、退院調整を充実する。

また、ケアマネジャーや訪問看護師等を対象とした勉強会等を通じてコミュニケーションを図り、連携を強化する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
退院調整件数 (件) ※	616	630	650

※ 在宅療養を支援するため、地域の医療機関等との調整や生活指導を行った件数。

(3) 在宅緩和ケアの推進

がんになっても住み慣れた地域で医療サービスを受け、安心して暮らすことができるよう、以下のとおり、在宅における緩和ケアを推進する。

ア 地域全体の緩和ケアの質の向上を図るため、地域の医療機関と連携して地域連携カンファレンスを実施する。

また、在宅療養支援機能を担う診療所や訪問看護ステーションとの連携を強化する。

イ 県共通の緩和ケア地域連携パスを実施するとともに、地域連携カンファレンスを開催し、地域の医療機関との連携強化を図る。

【目標とする指標 (地域連携の推進)】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
紹介率 (%) ※	92.8	92.1	93.0

※ 初診患者のうち、他の医療機関からの紹介患者の占める割合とした。

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
逆紹介率 (%) ※	31.7	31.5	32.0

※ 初診患者のうち、開設者と直接関係のない他の病院又は診療所へ紹介した患者の占める割合とした。

6 地域医療への貢献

(1) 地域のがん医療の向上・均てん化のための支援

地域のがん医療の向上・均てん化を推進するため、以下の取組を実施する。

ア 都道府県がん診療連携拠点病院として、栃木県がん診療連携協議会及び各部会を開催するとともに、地域の医療従事者向けの研修会等を開催する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
地域の医療従事者向け研修実施回数	年18回	年13回	年15回

イ 緩和ケア研修会や郡市医師会に対する出前講座等、地域機関向けの研修会を実施し、がん医療に携わる医療従事者の育成に対して積極的に支援する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
郡市医師会向け出前講座実施回数	—	年18回	年20回

ウ 県内における放射線治療の技術の均てん化を支援するため、県内の診療放射線技師及び医学物理士を対象としたセミナーを開催するとともに、県内の放射線治療施設を訪問して線量測定の実務指導を行う。

(2) がん対策事業への貢献

がん登録等の情報の整理、分析等を行うとともに、県のがんに関する計画の企画立案等に参画するなど、がん対策事業に対して積極的に貢献する。

7 災害等への対応

災害の発生や公衆衛生上重大な危機が生じた場合などにおいては、救急医療体制の整備のための医薬品の備蓄や被災地の支援等、県からの要請又は自らの判断に基づき、迅速に対応する。

また、災害時において適切な判断と的確な防災活動を遂行できるよう、職員に防災に関するマニュアルを配付して周知徹底を図るとともに、定期的に防災訓練を実施し、防災教育の徹底に努める。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営体制の確立

安定的な経営基盤を確立するため、組織を改編して経営企画室を新たに設置し、医療環境の変化に応じた戦略的かつ迅速な業務運営に努める。

また、各部署の権限や責任の所在を明確化し、実効性のある組織体制を構築するとともに、会議・連絡会等を見直し、効率的な体制を構築する。

2 経営参画意識の向上

職員全員が組織における価値観や中長期の経営の方向性を共有しながら、経営に対する責任感や使命感を持って積極的に経営に参画するよう、経営に関する情報を分かりやすく職員へ周知するとともに、経営戦略会議等において、業務改善に関する職員からのアイデアの収集と評価を行い、中期目標及び中期計画の考え方を共有できる院内体制を構築する。

3 収入の確保及び費用の削減への取組

(1) 収入の確保への取組

収入の確保を図るため、以下の取組を実施する。

ア より多く患者を紹介してもらえよう、地域医療機関への積極的な訪問を行うとともに、情報交換会や出張講座の開催等を通じて、病診・病病連携の強化に努める。

イ ホームページやメディア等を通じ、がんセンターの特長を周知するとともに、地域のイベントでのPR活動や出前講座の実施等、積極的な情報発信、広報活動を行う。

ウ 効率的かつ柔軟な病棟管理を行い、病床利用率を向上させる。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
病床利用率 (%) ※	73.3	63.2	66.5

※ 延べ入院患者数(退院日を含む年間入院患者数)を年間延べ病床数で除した割合。

エ 診療情報管理士を医事課に配属するとともに、診療情報管理士を中心に、診療報酬改定に適切に対応し、DPC機能評価係数の上積みを図る。

オ 入院時における限度額適用認定証の説明等により未収金の発生防止に努める。また、発生した未収金については、早急な督促、催告及び臨戸訪問を実施するとともに、回収困難債権については、弁護士法人へ回収業務を委託し、回収の徹底を図る。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
新入院患者数 (人)	4,684	4,100	4,300

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
新外来患者数（人）※	5, 6 9 3	5, 7 0 0	5, 7 2 0

※ 年度内に来院した外来患者のうち、初診料を算定した患者数。

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
1 日当たり入院患者数（人）	2 0 0. 3	1 8 1. 7	1 8 1. 7

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
1 日当たり外来患者数（人）	4 3 6. 1	4 2 4. 7	4 2 6. 3

（2）費用の削減への取組

費用の削減を図るため、以下の取組を実施する。

- ア 病院の収支状況を月次で管理するとともに、予算と実績の管理を通じ、職員全員に対してコスト意識の徹底を図る。
- イ 関係する部署が連携し、ジェネリック医薬品等、支出を抑制できる材料を積極的に導入する。また、契約方法を見直し、材料費の抑制を進めるとともに、採用しているベンチマークシステムを基に高価な品目について適正価格での納入を図る。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
診療材料費対医業収益比率（％）	9. 0	9. 3	8. 8

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
ジェネリック医薬品採用比率 (%) ※	60.5	68.5	70.0

※ 後発医薬品の数量を後発医薬品のある先発医薬品の数量と後発医薬品の数量の合計で除した割合。

ウ 医療機器の保守契約の見直し、光熱水費節約の徹底等、費用全般にわたる支出内容の見直しを実施する。

【目標とする指標】

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
委託費対医業収益比率 (%)	12.8	13.1	12.0

指標名	H26 年度 実績値	H27 年度 見込み値	H28 年度 目標値
減価償却費対医業収益比率 (%)	13.7	16.9	17.0

エ 適切なコスト管理等を行うため、診療行為別原価計算を実施するための経営分析システムを導入するとともに、診療科及び部門ごとに収支分析を行い、分析結果を報告するための運用を検討する。

第3 予算、収支計画及び資金計画

月次で収支状況を管理し、経常収支の黒字化を目指す。

1 予算（平成28年度）

別紙1のとおり。

2 収支計画（平成28年度）

別紙2のとおり。

3 資金計画（平成28年度）

別紙3のとおり。

【目標とする指標】

指標名	H26年度	H27年度	H28年度
	実績値	見込み値	目標値
経常収支比率（％）※	96.4	92.9	100%以上

※ 営業収益と営業外収益を合わせた経常収益を営業費用と営業外費用を合わせて経常費用で除した率。

指標名	H26年度	H27年度	H28年度
	実績値	見込み値	目標値
医業収支比率（％）※	77.3	74.8	80%以上

※ 医業収益を医業費用で除した率。

第4 短期借入金の限度額

1 限度額

6億円とする。

2 想定される理由

賞与の支給等による一時的な資金不足に対応するため。

第5 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

なし

第6 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

第7 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、将来の病院施設の整備、大規模修繕、医療機器の整備、研修の充実等に充てる。

第8 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

病院施設の老朽化の状況や求められる機能を踏まえ、院内にプロジェクトチームを設置して、長期的な視点から、がん専門病院として今後担うべき診療機能にふさわしい施設整備のあり方を検討する。

また、医療機器については、計画的に更新・整備する。

別紙 1

予算（平成28年度）

（単位：百万円）

区分		金額
収入		
営業収益		9,026
医業収益		7,322
運営費負担金		1,704
営業外収益		171
運営費負担金		79
その他営業外収益		92
資本収入		1,080
運営費負担金		621
長期借入金		459
計		10,277
支出		
営業費用		7,995
医業費用		7,813
給与費		3,329
材料費		2,541
経費		1,840
研究研修費		103
一般管理費		169
その他営業費用		13
営業外費用		126
資本支出		1,580
建設改良費		304
償還金		1,276
計		9,701

（注1） 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

【人件費の見積り】

平成28年度の総額を3,484百万円とする。

なお、当該金額は、法人の役職員に係る報酬、基本給、諸手当、法定福利費及び退職手当の額に相当するものである。

別紙2

収支計画（平成28年度）

（単位：百万円）

区分	金額
収入の部	9,837
営業収益	9,645
医業収益	7,299
運営費負担金	1,704
その他営業収益	642
営業外収益	166
運営費負担金	79
その他営業外収益	87
臨時利益	26
支出の部	9,812
営業費用	9,657
医業費用	9,099
給与費	3,696
材料費	2,360
経費	1,718
減価償却費	1,229
研究研修費	96
一般管理費	190
その他営業費用	368
営業外費用	127
臨時損失	28
純利益	25

（注1） 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

別紙 3

資金計画（平成28年度）

（単位：百万円）

区分	金額
資金収入	13,124
業務活動による収入	9,169
診療業務による収入	7,299
運営費負担金による収入	1,783
その他の業務活動による収入	87
投資活動による収入	621
運営費負担金による収入	621
財務活動による収入	459
長期借入金	459
県からの繰越金	2,875
資金支出	13,124
業務活動による支出	8,095
給与費支出	3,484
材料費支出	2,355
その他の業務活動による支出	2,256
投資活動による支出	304
固定資産の取得による支出	304
財務活動による支出	1,276
移行前地方債償還債務の償還による支出	1,276
翌事業年度への繰越金	3,449

（注1） 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。